

肝臓病の患者さんへ

当院では、より良い治療を行うための研究を実施しています。

「免疫チェックポイント阻害薬を受けた患者さんの実態調査」をおこなっています。

課題名：anti PD-1/PD-L1抗体療法の効果予測因子としてのGd-EOB-DTPA enhanced MRIの肝細胞相の有用性の検討

切除不能な進行肝臓病への新しい治療として免疫チェックポイント阻害薬が使用されるようになってきました。治療薬の効果は、肝生検をうけて、癌組織の遺伝子解析を受けなければ分かりませんが、患者さんにとって負担の大きい検査であることが懸念されます。

造影MRIを撮影し、その情報を用いることで、肝生検を行わなくても治療効果が予測できる可能性があり、私たちは研究を行っています。今後の患者さんの治療に役立てたらという思いから、この治療の効果や合併症に関する調査も行なうことにしました。

*この研究は、近畿大学医学部倫理委員会で承認されて行っています。

この研究では、担当医師が対象となる方を選び、日常診療時においてカルテに記載する情報・検査結果を解析しますので、新たな検査を行うことはありません。

研究実施期間：倫理委員会承認後～2020年12月31日

使用する情報：治療期間、副作用、血液検査、画像検査、病理組織結果を利用します。

共同研究機関：信州大学医学部 画像医学教室(研究責任者：山田哲)、神戸大学大学院医学研究科放射線診断学分野(研究責任者：祖父江慶太郎)に匿名化されたMRI画像を提供して画像を読影していただきます。

対象となる患者さん

20歳以上の男性および女性。肝臓癌に対して免疫チェックポイント阻害薬による治療を受けた通院患者さんを対象といたします。対象期間は2015/1/1～2020/5/31です。

お名前や個人情報などは守られます。

個人情報につきましては、研究責任者が厳重に管理致しますので、あなたの個人情報は守られます。外部に個人情報が提供されることはありません。研究結果は外部に公表されますが、その際も個人情報については守られます。ご不明な点がありましたら、下記当院 担当医師までお問い合わせください。

ご自身の診療録のデータを使ってほしくない方はお申し出ください。

この研究へのご自分の診療記録の使用をお断りになっても、不利益を受けることは全くありません。たとえそれが調査期間中であっても、いつでもお断りいただけます。その場合は、下記担当医にお申し出ください。

今回の調査につきましては、利害関係のある特定の企業、団体からの資金提供や支援は受けておりません。(利益相反はありません)

なお、本試験については下記ホームページでもお知らせしています。ご相談のある方は、事務局(担当：消化器内科医局 青木智子)にご連絡ください。

近畿大学医学部消化器内科ホームページ

<https://www.med.kindai.ac.jp/shoukaki/research/data.html>

近畿大学医学部 消化器内科 主任教授
研究代表者 工藤 正俊

072-366-0221 (代表)